

災害支援ナース活動報告書

報告者：小林雄一

所属施設：新潟臨港病院

報告月日：令和 6年 2月 20日

活動日	2月 5日（月） ～ 2月 8日（木）
活動場所	施設名 いしかわ総合スポーツセンター
活動内容	<p>2/5～2/6 夜勤業務 16:30 日勤担当者からの申し送り、情報収集 17:00 バイタル測定、健康状態観察、徘徊者の対応 19:00 内服管理指導、内服介助、看護師窓口で相談対応 21:00 眠前薬内服確認、内服介助 23:00 巡視、看護師窓口で相談対応 (2:00～6:00 仮眠休憩) 7:00 内服確認、内服介助 8:00～9:00 巡回、バイタル測定、日勤者に申し送り</p> <p>2/7、2/8 日勤業務 8:30 全体ミーティング、夜勤者からの申し送り、情報収集 9:00 内服処方依頼処理、窓口相談対応、応急薬対応、保健師と情報交換 11:00～12:00 昼休憩 13:00 内服確認、内服介助 14:00 窓口相談対応、コロナ感染者対応、勤務手順更新 16:00 夜勤者に申し送り</p> <ul style="list-style-type: none">・転倒転落のリスクが高い利用者を介護士チームに情報提供と介助介入の相談。テントの内や入り口に足が引っかからないように調整と工夫。・震災以降自分が生きているのか死んでいるのか分からない非現実感と不安を窓口で相談しに来た方を、保健師を通して DPAT に介入依頼。訪問日程調整。・皮膚の乾燥で痒みや痛みを訴える方に保湿剤の塗布介助と使用方の指導。
所感	<p>被災地の看護職員の負担を軽減し支えるとともに、被災者の健康レベルを維持できるように、適切な医療・看護を提供する、という原則と信念をもとに活動をした。今回の避難所は一見、十分な物資と環境そして様々な職種介入により、支援が行き届いているように思えたが、利用者は生活圏が限られ寝て過したり、運動不足や活動意欲低下、震災による強いストレスと慣れない環境のストレスから、身体的にも精神的にも健康レベルが低下しやすいと感じた。</p> <p>私たちの災害支援ナースは看護師特有の視点と分析能力を生かし、健康状態の判断と、今後起こりうる経過と問題を予測し、どう援助すべきか、またはどういった職種に相談と介入すべきかを調整する事が大切だと感じた。</p>